

令和4年度 東三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率で全国平均を上回り、無解答率も全国平均に比べ低かった。記述式の問題でも成果が見られたが、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」を扱った問題の正答率が低かったことが課題である。

＜数学＞ 平均正答率で全国を上回り、領域別に見てもすべての領域で全国の平均正答率を上回った。また無解答率も全国平均より低かった。ただ、「関数」や「図形」の領域で、「数学的に説明する」ことに課題が見られた。

＜理科＞ 平均正答率は大阪市、府平均は越えたものの、全国平均にはわずかに及ばなかったが、無解答率は全国平均よりも低かった。領域別に見ると、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が他に比べてやや低かった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)結果

日頃の学習の成果が表れ、5教科すべてにおいて大阪市・府平均を上回った。また無解答率も大阪市・府平均に比べて低かった。

○大阪市英語力調査(GTEC)

4技能すべてで大阪市平均を上回り、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合も60%を超えた。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)・チャレンジテストplus

2年生は5教科すべてにおいて大阪府平均を上回り、無解答率も低かった。全教科において1年生時に比べて向上している。1年生はチャレンジテストplusの理科、社会では大阪市平均を下回ったが、チャレンジテストの国語、数学、英語の3教科では大阪府平均を上回った。まだまだ課題はあるが、この1年間の学習の成果が少しずつ表れてきている。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

女子は8種目すべてで体力合計点で全国平均を上回るというすばらしい結果となり、男子も握力、長座体前屈、反復横とびの3種目で全国平均を上回った。

【今後に向けて】

学習面においては、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果から、それぞれ課題も見られるものの、各教科において一定の成果が上がっていると考えられる。一方、生徒質問紙の結果などからわかるように、学校の授業以外に勉強している時間が全国平均や府平均に比べて短い傾向がある。学校での授業に真面目に取り組んでいても、その後の復習が疎かになってしまうおそれがあり、さらなる向上を目指すためにも家庭での学習習慣の定着が課題である。

体力・運動能力については、コロナ禍の影響が心配される状況の中、特に2年生女子においてすばらしい成果が見られた。体育の授業を中心に組みこんできた結果であり、今後も継続して体力・運動能力向上を目指したい。また、学力や体力の向上のためにも、健康的な生活習慣は欠かせないとする。生徒が生活リズムを整え、自ら健康管理ができるように意識の向上を図るとともに、家庭との連携を深めていきたい。